



これならわかる! クイズ式 宇宙ガイドブック

JAXA 宇宙航空研究開発機構 編

今人舎 1,500円+税 143頁

読み物
お薦め度
4
☆☆☆☆★

米・ソを中心に繰り広げられる宇宙開発競争の歴史から始まり、ロケットの役割や仕組み、人工衛星、月・惑星探査機、国際宇宙ステーション、日本人宇宙飛行士まで、宇宙開発に関する話題を広く解説する子ども向けの本だ。基本的には、見開きごとに一つの話題が取り上げられ、見出しのクイズがその話題に興味をもつきっかけを与えてくれる。頁を順番に読み進めることで、少しずつ高度な知識が身につくような構成になっている。

目をひくのは、数多くの写真やイラストだ。古い時代からのロケットや人工衛星、探査機の写真などが豊富に使われている。しかも全頁カラー印刷なので眺めているだけでも楽しい。人工衛星の軌道の種類やスイングバイ（惑星の重力を利用した探査機の加減速）など、文章だけでは説明の難しい部分は、イラストが理解を助けてくれる。

クイズの正解は見開きの中に書かれているが、逆に書くことで、正解がつい目に入ってしまうよう工夫されている。「ネタバレ」になってしまうが、選択肢式のクイズで答えを一つに絞れないものがあり、さんざん考えたあげくに正解を確認してみると、正解は一つではなかった。「どんなことにも必ず答えがあり、しかも答えは一つである」と考えがちな最近の風潮に釘を刺すかのような楽しい裏切りである。

途中とところどころに挟まれた「もっと知りたい!」では、それぞれ一つのトピックが取り上げられ、深く掘り下げて解説されている。日本や各国のロケットの大きさや推力などの諸元が示された表では、細かく並んだ数字を見るだけで心躍るといった読者も少なくないはずだ。国際宇宙ステー

ションの実験棟「きぼう」については、他国の実験棟と違って窓が二つあることが自慢のポイントであるなど、普段あまり耳にしない話題もあって興味をそそられる。なかでも、「近代ロケットの父」ゴダードらロケット開発研究者たちの苦労話はなかなか読み応えがある。巻末に紹介されている、これまで宇宙に行った8人の日本人宇宙飛行士が飛行士を目指した理由も合わせて読むと、宇宙開発に携わる人々の情熱が伝わってきて、大人の読者も心を動かされるに違いない。

子ども向けのため、文章はたいへん簡潔にまとめられており反面、この本を読んだだけでは原理などが詳しくわからないものも多い。この本では基礎的な知識を身につけ、さらに詳しく知りたい読者は中級者向けの本に進むとよいだろう。

小惑星の説明などで文章にわかりづらい部分があったり、「冥王星より大きな天体が多数発見されるようになった」といったような誤った記述が見られるのは残念。

ロケットの表などに使われている耳なじみのない語句には、宇宙開発初心者の読者にも意味がわかるよう、簡単にでもすべてに説明があるとよかった。

最近「はやぶさ」「宇宙兄弟」など、宇宙開発関連の話題が注目を集めている。8月22日に予定されているJAXAの新型ロケット「イプシロン」の打ち上げに目を輝かせる子どもも多いだろう。そんな、ロケットや宇宙開発に興味をもち始めた子どもたちが楽しく学べる一冊としてお薦めしたい。

石崎昌春（国立天文台 天文情報センター）